【33】外水と内水

河川の洪水や豪雨による浸水被害を報じるときに“外水”、“内水”という用語が使われることがあります。もともとは専門的な言葉使いですが、近年は水害が多いせいか、新聞、テレビでも使われるようになりました。

河川の洪水が、堤防を越えたり堤防を突き崩して氾濫し、市街地や農地が浸水するのを、“外水氾濫”と云います。

その河川（以下、本川という）に流入する支川たる小河川、農業排水路、下水道、道路側溝等の排水施設が、本川の水位が高かったり、排水施設の能力不足によりその地域に降った雨を排除できず溜まって浸水に到ることを、“内水氾濫”と云います。

しかし、支川や排水路なども基本的には本川の水系の一部ですから上の区分も便宜的なものです。実際、大洪水で本川が氾濫したとき、その地域にも豪雨があって内水氾濫が生じていたら、外水も内水も一緒になってしまって区別する意味がありません。

そもそも外水、内水の区別は河川上流部の山地では意味のない概念で、河川の中下流部で堤防のある河川に囲まれた低地地帯で意味を持ちます。

低地でも河川が堤防を持たないいわゆる堀込河道の場合は、外水、内水の区別は明確ではありません。